



# 仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1  
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

## 「民間ユネスコ運動の日」

「ユネスコ運動」が始まって75年になります。毎年、記念行事を開催しておりますが今年は7月9日(土)午後2時から「仙台福祉プラザふれあいホール」にて60名の参加のもと開催しました。

初めに青年部代表・仲海渡さんの音頭に合わせて「ユネスコ会員要綱」を唱和し、その後全員で「ユネスコの歌」を斉唱しました。次いで、見上会長の挨拶、ご来賓として前岩沼市長・井口経明様よりご挨拶をいただきました。また、書き損じはがきを寄付いただきました団体・個人及びキリバス共和国への支援募金活動に取り組んだ気仙沼市立鹿折小学校児童会への感謝状贈呈を行いました。当日は日本キリバス協会代表理事のケンタロ・オノさんにもご参加いただき児童会の取り組みに感謝の言葉をいただきました。

その後の記念講演は宮城県内に13の個別教室(アップル)を開設されて、発達障がいのあるお子さんや、震災孤児への学習支援を行っている株式会社セレクトィーグループ代表取締役嶋山明さんより「持続可能な教育を通じ、自己肯



(株)セレクトィーグループ  
代表取締役 嶋山明氏



感謝状贈呈

定を育む」と題して、今までの経験を生かした事例を紹介しながらお話をいただきました。最後に青年部の皆さんから現在の活動報告があり今後も引き続き当協会としても応援してまいります。(松坂宏造 記)

## キリバス民間ユネスコ協会設立支援プロジェクト

3年目となった本プロジェクトは、今年度になって、大きな進展がありました。キリバス共和国の首都機能をもつ南タラワ市が、民間ユネスコ協会設立に手を挙げたのです。日本キリバス協会のケンタロ・オノ氏の紹介に因るものですが、設立地としては最高の条件の市です。コロナ禍で思うような活動ができない中で、キリバス共和国の医療物資不足に呼応してのマスク支援や、日本文化の紹介・青年部によるメッセージをYouTubeで発信するなどの、正に草の根の活動が功を奏したものと思います。

キリバス民間ユネスコ協会設立がプロジェクトの目的ではありますが、設立後の活動に、本当の意味があります。SDG13(気候変動に具体的な行動を)14(海の豊かさを守ろう)を中心に、持続可能な地球への取り組みを両協会で行おうというものです。次世代の子どもたちへの教育(SDG4)の大切さを認識し、昨年度から両国の学校間交流による学び合いを実施しています。

War Memorial小学校と気仙沼市立鹿折小学校に加え、Sacred Heart College(高校)と多賀城高校の交流が始まっています。

設立支援のため、11月1日~12日、見上会長と内藤副会長がキリバス共和国に渡航し、南タラワ市長を表敬訪問します。民間ユネスコ協会の活動説明用に、仙台ユネスコ協会を紹介する動画を作成中です。年明けに、報告会を開催する予定です。

(プロジェクトリーダー 内藤恵子 記)



民間ユネスコ協会活動紹介動画から  
・War Memorial小学校と気仙沼市立鹿折小学校の交流(下左)  
・Sacred Heart Collegeと多賀城高校の交流(2枚)(上・下右)

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

# 第1回 SALON&ZOOM講座

## 「和食のユネスコ無形文化遺産と家庭料理」 佐藤信氏



講師の佐藤信参与



鶴岡市食文化創造都市担当の鈴木主査による取組み説明



講話に聞き入るSALON参加の皆さん

7月23日、第1回SALON&ZOOM講座を開催しました。講師は、参与の佐藤信さん。佐藤さんが2017年に現代の名工に選ばれたことは、皆様ご存じの通りですが、料理人としての卓越した見識の中から、本講座では「和食のユネスコ無形文化遺産と家庭料理」をテーマにお話いただきました。今回は、「ユネスコ食文化創造都市」に認定されている鶴岡市の取組を担当推進課の鈴木様からご説明いただき、酒田ユネスコ協会の地主会長様にもご参加いただくという、創造都市ネットワークの趣旨にも繋がる講座となりました。

ユネスコ無形文化遺産とは、土地の歴史や生活風習などと密接に関わっている文化を保護し、尊重する機運を高めるための制度です。

「和食」は、自然を尊重する日本人の心を表現したものであり、伝統的な社会的習慣として、世代を超えて

受け継がれていることが評価された、という解説から始まり、家庭料理の素晴らしさまで、興味深い内容をお話いただきました。休業時代は楽しかったと語り、優れた親方（京都では親父さんと呼ぶそうです）から学び、一流を見、書籍から啓発されたとのこと。料理長として名店で活躍の傍ら海外を含めた後進の指導を行い、現在は執筆活動に専念されています。

続編として、紅葉に彩られた蔵王の庵「精進茶懐石雪月花 利休庵」（参与の佐浦公美さん庵主）で、10月29日（土）、精進茶懐石の実食体験講座を開催いたします。

※10月29日（土）の続編は、都合により延期になりました。開催日時は、決まり次第お知らせいたします。

（内藤恵子 記）

## ユネスコカレッジ講座

10/20「みちのく潮風トレイルと熊野神社」

今年のテーマ「みちのく潮風トレイルと熊野神社」です。好天に恵まれた10月20日参加者30人、貸切バスで名取方面へ向かいました。

スタートは閑上「みちのく潮風トレイル名取トレイルセンター」。青森県八戸市から福島県相馬市まで4県28市町村にまたがり太平洋沿岸を一本の道で繋ぐ1,020キロのロングトレイルの情報発信地。歩く文化を通して「自然と人間の共生、環境問題への意識啓発、東日本大震災の記憶の継承を目指すトレイルです。私たちも潮風を肌で感じながらトレイルセンター、日和山、昼食会場メープル館まで超ショートトレイルを体験。とても気持ち良かったです。

昼食は、秋の風物、郷土食のはらこ飯、海鮮丼を美味しく。その後両手に一杯買い物を楽しみました。

午後は名取市歴史民俗資料館。ここではこれから訪れる熊野那智神社と熊野神社の事前学習。

熊野那智神社は高館山の山頂に鎮座。眼下に広がる絶景に見惚れました。名取平野、閑上の海、太平洋、なんと牡鹿半島もうっすらと見え景色の美しさにみんな大感動。



みちのく潮風トレイル名取トレイルセンターで、副センター長から説明を受ける



名取市歴史民俗資料館で、学芸員から熊野神社等の位置関係について説明を受ける



熊野神社前の参加者集合写真

熊野神社は東北熊野信仰の中心地の社。本殿は熊野造り様式、銀杏の大木が色付き始め御神池に神楽殿の朱色が映え秋を感じました。名取市歴史民俗資料館の鵜崎館長から専門的な説明をして頂き当地の魅力を沢山知りました。

往きの車内では「花は咲く」の曲、帰りの車内で往年の名画「ひまわり」の音楽が流れ、中村前会長から大震災復興とウクライナへの平和のメッセージが説明されました。ユネスコ憲章前文と仙台ユネスコ協会のミッションを思い起こしました。

コロナ禍で不安でしたが基本的な感染対策を守りながら3年ぶりに外に出てユネスコカレッジ講座を催行しました。皆様のご協力で何事もなく楽しい研修旅行ができ、感謝申し上げます。

秋日和の一日、学びを深め知の糸を紡ぐことができたと感じています。（理事 鈴木かつら 記）

## ユネスコ会員企業紹介

### (株)藤崎

#### SDGsの取り組みについて

藤崎では昨年若手社員を中心とした「藤崎未来の杜プロジェクト」をつくり、持続可能な社会をつくる環境活動に取り組んでいます。

結成のきっかけは今年の6月に藤崎で「環境宣言」を発信したこと。環境への取り組みを強化し、「脱炭素社会」「循環経済社会」「自然共生社会」を目指すための活動を全社一丸で推進していこうという指針を掲げ発信した内容になっていますが、その中でも特に「自然共生社会」を目指すことに意欲を見せた若手社員数名が手を上げ、結成したプロジェクトチームとなっています。

具体的に何をしようかという議論を経て、「百貨店らしい環境に配慮した商品を提案すること」「環境保全活動により地域社会に貢献すること」を目的に活動を開始しました。その第一歩はプロジェクトメンバー10名程度での南三陸町への訪問。「サステナブルツーリズム」と題し、自然の恵みが地域全体に行き渡り循環している当町の方たちの活動や思いに触れることに感動し、これからのプロジェクト活動に活かしていこうと感じました。

その後メンバーは一番町で開催された尚絅学院大学主催のイベント「SDGsマルシェ」に参加。南三陸町の



森と海に関する取り組みをまとめたパネル展示や間伐材を使用した木育ワークショップを実施してお客様に楽しんでいただくことを経験したことや地元の大学のメンバーとコミュニケーションをとらせてもらったことでより環境への意識も向上してきました。

今秋には閑上地区での育樹活動に参加する予定です。プロジェクトができる前の2019年に当社の「200周年プロジェクトメンバー」を中心に従業員、役員、OBOGの方々と参加させていただいた植樹活動での思いを受け継ぎ、未来に繋いでいきたいと考えています。当社もまだまだ未熟なところもあり、仙台市の方々、大学、お取引先の方々が主導で活動されているところに参加させていただくという事が多いですが、そこで得た知見を活かして持続可能な地域社会に微力ながら協力していきたいと思っています。

これからの時代の商品やサービスには“サステナブル”な要素があることが必須条件にもなってきています。当社のような地域の百貨店としては“サステナブル”に地域の魅力“を掛け合わせた価値をつくりだし、発信することで宮城県、仙台市のブランディングに寄与していくことが使命だとも感じています。



### カメイ (株)

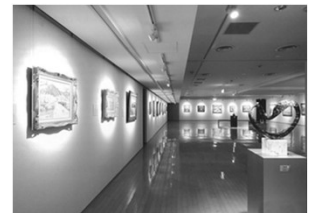
明治36年、宮城県塩釜において創業した当社は、以来、地域社会に密着し、人々の生活に役立つ商品やサービスをご提供してまいりました。その原点はグローバルに事業を展開する今も決して変わりません。これからも地域の皆様から長きにわたり信頼いただけるよう感謝の気持ちを忘れず、事業活動はもちろん、社会に貢献できる企業を目指し、地域貢献、環境保全などに取り組んでまいります。



#### 社会貢献活動の取り組み

##### カメイ美術館の運営（文化芸術振興）

カメイ美術館は、当社創業90周年を記念して設立された財団法人（現：公益財団法人）カメイ社会教育振興財団の事業の一環として、文化及び芸術振興に寄与し、地域に貢献することを目的に開館しました。



国内外の近・現代の具象画を中心とした絵画を展示

##### 奨学金支給・貸与事業（学問・教育振興）

昭和56年に設立された財団法人（現：公益財団法人）亀井記念財団は、奨学金の支給・貸与を通じて、学びを必要とする学生・生徒及び外国人奨学生などを支援しています。これまで3,000名を超える奨学生を応援してきました。

##### スポーツ振興

スポーツの普及や青少年の健全育成を目的としたスポーツイベントを開催しています。



カメイカップU-15東北ユースサッカー選抜大会

【創業】	1903年(明治36年)
【設立】	1932年(昭和7年)
【代表者】	代表取締役社長 亀井 文行
【売上高】	連結：4,825億円 個別：3,205億円(令和4年3月期)
【事業所】	国内拠点(24支店、46営業所) グループ(国内法人53社、海外法人26社)
【事業内容】	エネルギー、食料、建設関連、自動車関連、海外・貿易、ペット関連、ファーマシー、物流、オフィス関連、リース、保険代理店などの事業を展開

### 第57回 国際理解に関する弁論大会 兼 2022年度第69回国際理解・国際協力のための高校生的主張コンクール宮城県予選

### 青年部だより

宮城県高等学校国際教育研究会主催による第57回国際理解に関する弁論大会が、9月9日宮城県仙台二華高等学校を会場にして開催されました。今年もコロナ感染対策として映像審査となりました。



審査会の様子

各高校から11名のビデオ映像により内容70点、表現態度30点の審査基準をもとに行われました。宮城県知事賞は宮城県仙台東高校3年の梁競元さん、仙台ユネスコ協会会長賞を宮城県仙台東高校1年の中西咲葵さんが受賞されました。なお、宮城県知事賞を受賞した梁競元さんは、10月24日に国連大学で開催される2022年度第69回国際理解・国際協力のための高校生的主張コンクールの宮城県代表として推薦されました。(小泉知加子 記)

東北ブロック・ユネスコ活動研究会に仙台の青年部として、また、日ユ青年代表理事として、中谷が参加してきました。研究会では北東北の縄文遺跡について、小中学生がジュニアボランティアや学校で、文化や歴史を学ぶだけではなく地元のPR活動につなげており、草の根での活動の良さを感じました。

一方で、ブロック研究会後の代表者会議では、東北ブロック内では青年部がある協会が仙台のみとなっている課題共有と、今後ユネスコ協会の継続のために青年の育成についての意見収集を行いました。

各地域が次世代育成に課題を持っている中で若者に期待が高まっていることが感じられました。その中で、何かやりたいと出てきた青年への支援を各地域代表にお願いするとともに、私も青年代表理事として全国へつなげていく支援をすることをお約束してきました。(中谷祐太 記)

### 東北ブロック・ユネスコ活動研究会 青森大会

### 第25回 子ども絵画展 「絵で伝えよう！わたしの(町の)たからもの」

10月8日(土)青森市ウェディングプラザアラスカにて、「特徴ある自然や地域文化の継承と未来に向けた創造」をテーマに、様々な立場から、世代を越えたディスカッションが行われました。昨年、世界遺産に北海道・北東北の縄文遺跡群が登録されたことから、登録に関わりの深い方々の発表と児童による活動発表がありました。その中でも一番印象に残ったのは、一戸町立一戸南小学校の児童による「御所野子どもガイド」の紹介でした。

三年生以上全員が所属する「御所野愛護少年団」の団長・副団長三名による発表は、参加者も縄文時代へタイムスリップしているかのような、心に残る素晴らしいガイドでした。



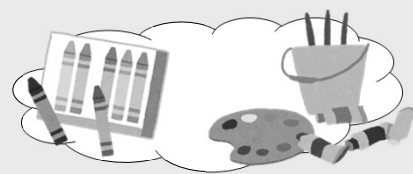
尚、当協会からは、青年部も含む十名が参加し、学びを深める研修活動となりました。(事務局長 針生真由美 記)

ユネスコ子ども絵画展 第25回「絵で伝えよう！わたしの(町の)たからもの」は、2023年1月17日(火)～1月22日(日)東北電力グリーンプラザ・アクアホールにて開催予定です。例年より展示期間が一日増えました。

地域の文化や自然を見つめ直し、未来へと引き継いでいく気持ちを育むことを目的とし、毎年開催されている子ども絵画展も25回と回を重ねてきました。

未だコロナ下ではありますが、今年も小学生197点、中学生44点、合計244点の応募がありました。

11月22日(月)の審査会で入賞作が決まります。今年度は3年ぶりに展示最終日に表彰式を行う予定です。(原一代 記)



### これからの行事予定

- 第2回SALON&ZOOM講座  
開催日：11月18日(金)10時～11時半
- ユネスコ情報交換会  
開催日：12月15日(木)17時～18時半  
場 所：DUCCA仙台駅前店

- 子ども絵画展(開催予定)  
開催日：2023年1月17日(火)～22日(日)  
場 所：東北電力グリーンプラザ・アクアホール

### 会員募集 あなたも参加しませんか！

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています！

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

### 仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	82
個人会員	137
青年部会員	14
合計	233

(10月末現在)

### 【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子  
伊藤 律子 岩山 浩一  
佐藤 皇季 千葉 雅保

### 【編集後記】

ユネスコ会報470号をお届けします。7月の「民間ユネスコ運動の日」の講演会から、10月までの活動報告をまとめてみました。ユネスコカレッジ講座では、3年ぶりの研修旅行となり有意義な会合でした。少しずつコロナ禍の中感染対策を守りながら開催してきています。仙台ユネスコ協会は親しみのある活動をしています。お仲間に加わって一緒に活動しませんか。  
仙台ユネスコ会報編集長 小泉知加子